

## 第五章 総訓生の中学校での学力について

総訓生は中学校在籍中にどのような学力をしめしたであろうか。

一般的には、「中学校での学力の低い者が総訓生に多い」とあいまいにいわれているが、その学力の低い原因が何によるのか、そして、学力が低いとすれば、職業訓練をうけることによつて職業人として育成するにはどのような方法が最適なのか、中学校での学力なども多角的に把握して、訓練計画を展開すべきであろう。この報告では、第1段階として、訓練校に入っている生徒の知能偏差値との関連から、中学校における学力の実態を明らかにする。

調査の方法は第一章で述べたごとくで、中学校訪問調査で得た訓練生92名のデータを分析している。

集計の基準としては、中学校の学力は国語・数学・理科の3科目について、第三学年時の5段階評価の合計得点を用いる。

### 1. 中学校での総訓生の学力について

総訓生の中学校での国数理の学力を示したのが第8図である。

つまり、普通以上の学力成績の者は全体の181.4%であり、普通以下の学力成績であつた者は全体で53.2%である。

参考として高等専門工業学校進学者の場合についてみるならば、普通以下の者は17名中1名であり、普通以上の学力成績の者は64.7%である。

このように、総訓生の中学校での国数理の学力は5割の者が普通以下であり、2割の者が普通程度以上の学力である。

### 2. 学力と知能偏差値との関連

この中学校調査対象の総訓生の全員の平均知能偏差はSS 46.1である。

総訓生の知能偏差値と学力の相関をみたのが第9図である。

この図でわかることは、公立高校進学者では、知能が普通以上で学力の発揮されない者が入っていないのに対して、※総訓生は知能偏差値がSS 50以上でありながら、知能に応じた学力を発揮していない者が調査者全員の9.8%もいる。

この傾向は、43年調査の結果が9.8%であることから信憑性がある。

この事実からいえることは、(1)知能が普通程度以上でありながら、学力面にそ

れが発揮できない訓練生と、(2)知能が普通以下で学力がでない訓練生とは指導の方法を工夫して、それぞれの個性に応じて、訓練計画が考案されることが望まれる。

第8図 中学校での学力

学 力	人 数	%	
国・数・理②①のみ	43	46.7	49
" ①のみ	6	6.5	
" ALL④	2	2.2	17
" ALL③	10	10.9	
" ③④のみ	5	5.4	
" ALL⑤	0		
" ④⑤のみ	0		
TOTAL	92	100.0	

—  
53.2  
%

+  
18.4  
%

第9図 中学校での学力と知能偏差値との関連

知能 SS段階	学力評価				
	3~4	5~6	7~8	9~10	11~12
65~69					
60~64				1	
55~59		2	1	4	
50~54	2	5	7	4	2
45~49	1	11	13	4	
40~44	4	11		2	
35~39	4	6	4		
34以下	1	2			